

保健管理・総合相談センター年報

目次

巻頭言	3
センター長 大森哲郎	
I.保健管理部門	
1. 診療・健康相談日程表	4
2. 学生定期健康診断	5
(1) 学生定期健康診断の概要	
(2) 平成 29 年度受診状況	
(3) 歯科検診受診状況	
(4) 平成 29 年度事後措置件数および経過観察件数	
3. 学生特別健康診断	10
平成 29 年度受診状況（放射線業務従事者、学内駅伝参加者）	
4. 職員定期健康診断（事後措置）	11
平成 29 年度事後措置件数	
5. 職員特殊健康診断	12
平成 29 年度受診状況	
6. 職員特定保健指導	13
特定保健指導の概要と平成 29 年度実施状況	
7. 感染症対策	15
①B 型肝炎予防対策（学生）	
②インフルエンザワクチン接種状況	
8. 学内行事での救護活動	16
平成 29 年度の救護活動	

9. 産業保健活動	16
産業保健活動の概要	
10. 常三島地区利用状況	17
(1) 学生の学部別利用状況	
(2) 学生の月別利用状況	
(3) 職員の利用状況	
11. 蔵本地区利用状況	19
(1) 学生の学部別利用状況	
(2) 学生の月別利用状況	
(3) 職員の利用状況	
12. 学生メンタルヘルス関連	21
(1) こころの相談室受診状況	
(2) 新入生メンタルヘルス健診実施状況	
13. 健康教室実施利用状況	23
14. 学生健康診断証明書発行状況	24
15. 平成 29 年度年間主要行事	25
II. 総合相談部門	
1. 利用状況	26
(1) 学生相談利用状況	
(2) 職員相談利用状況	
2. 活動報告	28
平成 29 年度活動報告	
あとがき	30

総合相談部門長 山本真由美

巻頭言

レジリエンスをいう言葉を聞いたことがおありでしょうか。ストレスや病気を跳ね返す力のことで、精神医学や心理学の領域では10年ほど前から注目されています。ストレスへの脆さや病気になりやすさを意味する脆弱性とは反対の概念です。ストレスに対して脆弱性が高いと心身の不調に陥りやすく、レジリエンスが高ければそれを跳ね返す力があるということになります。

この概念を早くも1970年代に提唱したのは、マイケル・ラターという高名な児童精神科医です。ラターは、母親を失うという重大な逆境に陥った子どもたちでも、その反応や成長は一樣ではなく、実際には大きな差異があることを観察し、環境要因に対する感受性には大きな個体差があることを示しました。そして逆境を跳ね返して力強く成長する子どもたちに備わった力をレジリエンスと呼びました。当初は、体質的・遺伝的要因を重視していたようですが、後には気質や性格の固定的特徴でなく、逆境に対する対応とコーピングとの相互プロセスと考えるようになったようです。

ラターの関心は、あくまで重大な逆境に直面しながらも、なおかつ良く適応している子どもにあつて、通常環境の適応良好は子どもにはなかったのですが、レジリエンスという概念は、次第に子どもだけでなく大人にも、そして過酷な環境だけでなく日常生活におけるストレスに対しても転用されるようになりました。また一部の人だけでなく誰にでも備わっているものであり、さらに個人を取り巻く心理社会的環境も深く関与し、自身の創意工夫によって増幅させることもできると考えられるようになっていきます。

たとえばアメリカ心理学会のWEBサイトには“[The Road to Resilience](#)”というページがあり、このタイトル自体がレジリエンスは意図して獲得できることを示唆しています。具体的なアドバイスのひとつとして、周囲と良好な関係をもつことは重要であり、親身な助言やサポートを受け入れることはレジリエンスを高めると述べられています。

レジリエンスを最近の流儀で考えると、学生時代の様々な体験は、たとえいくらか苦味のある場合でも、将来へ向けたレジリエンスを高める作用を潜在的に持っています。保健管理・総合相談センターは、心身不調を自覚する学生へ親身な助言や診療を提供して、ストレスや悩みや病気を跳ね返すお手伝いをする施設です。

平成30年8月
センター長 大森哲郎

I.保健管理部門

1. 診療・健康相談日程表

常三島地区、蔵本地区ともに8時30分から17時15分までオープンしている。

常三島地区

	月	火	水	木	金	
内科	○	○	○	○	○	
メンタルヘルス	○	○	○		○	予約制、水曜は午前のみ
健康相談	○	○	○	○	○	
外傷処置	○	○	○	○	○	

担当スタッフ

前田 健一 (医師、内科担当)
井崎 ゆみ子 (医師、メンタルヘルス担当)
井上 麻由 (医師、メンタルヘルス担当、非常勤 H28.4~)
早瀬 純子 (保健師) 西尾よしみ (看護師)
武内 早苗 (臨床検査技師)
先山 あさこ (保健師、H29.4~H30.3)

蔵本地区

	月	火	水	木	金	
内科	△	△	△	○	△	△はオンコール 木は午前のみ
メンタルヘルス			○		○	水・金とも午後のみ
健康相談	○	○	○	○	○	
外傷処置	○	○	○	○	○	

担当スタッフ

前田 健一 (内科担当、オンコール)
井崎 ゆみ子 (メンタルヘルス担当)
井下 真利 (医師、メンタルヘルス担当、学校協力医 H27.8~H29.9)
富岡 有紀子 (医師、メンタルヘルス担当、学校協力医 H29.10~H30.4)
横山 小百合 (看護師)

2. 学生定期健康診断

(1) 学生定期健康診断の概要

【実施項目】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	M1	M2	D1	D2	D3	D4
身長・体重	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
血圧	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
尿検査	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
視力検査	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
内科診察	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
血液検査	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
胸部X線間接撮影	●	◎	○	▲	●	●		●			▲	●
精神健康調査	●											
歯科検診	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

●印は全員該当 ○印は栄養学科・保健学科のみ

◎印は総合科学部「介護体験」実習生

▲印はその学年が最終学年となる学科、および医学科・薬学部

□印は希望者

【実施時期と体制】

新入生の健診は4月入学当初のオリエンテーションの中に組み込み3日間実施している。他の在在学生においては4月上旬から5月上旬にかけて常三島地区で8日間、蔵本地区で6日間実施した。また平成28年度からは秋季入学生を対象に10月下旬と11月上旬に2日間実施し、29年度以降も実施予定である。

春季定期健診については保健管理部門全スタッフと臨時看護スタッフ3名及び1日当たり学務・学部等の事務職スタッフ約5名、病院医師2～3名の協力にて実施している。

【実施結果の概要】

平成29年度の定期健康診断の全体の受診率は69.6%で、平成28年度68.5%と比較して微増であり、平成24年度までは50%台であったことから見ると、受診率は上昇している。

秋入学生健康診断の受診率は留学生で75%、日本人で14.3%と、留学生で昨年度85%より低下している。また、日本人の受診率が低いのは、日本人対象者は社会人入学生が多く、すでに別途健診を受診していることが関係している。同様のことが春の定期健康診断の大学院生後期課程にも言え、健診受診率は19.0%となっている。

(2) 学生定期健康診断受診状況

定期健康診断 (春季)

平成 29 年度

学部	年次	学部生							大学院生(前期)			大学院生(後期)				総計			
		1	2	3	4	5	6	計	M1	M2	計	D1	D2	D3	D4		計		
総合科学	学生数	187	181	301	290			959	43	46	89	4	3	6		13	1061		
	受診数	181	74	168	202			625	32	26	58	0	0	1		1	684		
	%	96.8	40.9	55.8	69.7			65.2	74.4	56.5	65.2	0.0	0.0	16.7		7.7	64.5		
医学	学生数	321	316	295	281	122	111	1446	62	64	126	65	58	84	111	318	1890		
	受診数	308	290	276	267	115	106	1362	52	37	89	10	9	12	2	33	1484		
	%	96.0	91.8	93.6	95.0	94.3	95.5	94.2	83.9	57.8	70.6	15.4	15.5	14.3	1.8	10.4	78.5		
歯学	学生数	61	51	54	58	41	51	316	7	7	14	18	15	17	21	71	401		
	受診数	53	44	52	41	38	43	271	4	0	4	11	9	8	8	36	311		
	%	86.9	86.3	96.3	70.7	92.7	84.3	85.8	57.1	0.0	28.6	61.1	60.0	47.1	38.1	50.7	77.6		
薬学	学生数	88	92	83	86	40	42	431	34	34	68	12	11	19	2	44	543		
	受診数	82	87	69	79	40	37	394	7	17	24	6	5	7	0	18	436		
	%	93.2	94.6	83.1	91.9	100.0	88.1	91.4	20.6	50.0	35.3	50.0	45.5	36.8	0.0	40.9	80.3		
工学	昼間	学生数	11	105	629	606			1351	360	341	701	36	39	63		138	2190	
		受診数	0	21	260	416			697	220	284	504	7	9	7		23	1224	
		%	0.0	20.0	41.3	68.6			51.6	61.1	83.3	71.9	19.4	23.1	11.1		16.7	55.9	
	夜間主	学生数	0	12	57	59			128									128	
		受診数	0	2	24	35			61									61	
		%	0.0	16.7	42.1	59.3			47.7									47.7	
理工	昼間	学生数	589	523					1112									1112	
		受診数	552	309					861									861	
		%	93.7	59.1					77.4									77.4	
	夜間主	学生数	57	48					105										105
		受診数	56	34					90										90
		%	98.2	70.8					85.7										85.7
生物資源産業	学生数	103	99					202										202	
	受診数	99	61					160										160	
	%	96.1	61.6					79.2										79.2	
計	学生数	1417	1427	1419	1380	203	204	6050	506	492	998	135	126	189	134	584	7632		
	受診数	1331	922	849	1040	193	186	4521	315	364	679	34	32	35	10	111	5311		
	%	93.9	64.6	59.8	75.4	95.1	91.2	74.7	62.3	74.0	68.0	25.2	25.4	18.5	7.5	19.0	69.6		

(内科受診をもとに算出)

(1年は胸部撮影をもとに算出)

秋季入学生健康診断

平成 29 年度

		留学生	日本人	合計
総合科学部 総合科学教育部	学生数	25		25
	受診数	20		20
	%	80.0		80.0
医学部 医科学教育部	学生数	6	7	13
	受診数	0	0	0
	%	0.0	0.0	0.0
歯学部 口腔科学教育部	学生数	3	3	6
	受診数	3	0	3
	%	100.0	0.0	50.0
薬学部 薬科学教育部	学生数	2		2
	受診数	0		0
	%	0.0		0.0
工学部 先端技術科学教育部	学生数	26	11	37
	受診数	21	3	24
	%	80.8	27.3	64.9
理工学部	学生数	10		10
	受診数	8		8
	%	80.0		80.0
生物資源産業学部	学生数			0
	受診数			0
	%			0.0
国際センター	学生数	7		7
	受診数	7		7
	%	100.0		100.0
合計	学生数	79	21	100
	受診数	59	3	62
	%	74.7	14.3	62.0

(3) 歯科検診受診状況

予防歯科の伊藤先生のご協力を得て、健診日のうち常三島、蔵本各 2 日ずつ、希望者に歯科検診を行った。歯科検診受診者は、平成 25 年度までの 3 年間は平均 100 名程度であったが、平成 28 年度は 205 名、平成 29 年度は 245 名と年々増加している。

平成 29 年度

		総合科学部		医学部		歯学部		薬学部		工学部		理工学部		生物資源産業学部		総計
		学部生	院生	学部生	院生	学部生	院生	学部生	院生	学部生	院生	学部生	院生	学部生	院生	
常三島地区	4月17日	5	1	0	0	0	0	0	0	15	8	6		2	0	37
	4月18日	14	2	0	0	0	0	0	0	14	15	8		0	0	53
蔵本地区	4月26日			22	10	9	0	24	4							69
	4月27日	1	0	77	3	0	0	4	0	0	0	1				86
小計		20	3	99	13	9	0	28	4	29	23	15		2	0	245
総計		23		112		9		32		52		15		2		

(4) 定期健康診断後事後指導および経過観察件数

健診結果を受け、6月に事後指導、10月に経過観察を行っている。

健診後、血圧で収縮期血圧 140mmHg 以上、又は拡張期血圧 90mmHg 以上、尿検査で蛋白 1+以上、潜血 1+以上、糖 1+以上のいずれかに該当する場合で、再検査を呼びかけている。事後指導対象者の事後指導受診率は平成 26 年度~28 年度は 61%~65%で増加傾向であったが平成 29 年度は 57%と低下している。未受診者には、平成 27 年度から文書を送付し、指導を行っている。

* 学生事後指導及び経過観察の対象基準

	血圧		尿			血液検査							肥満度	内科	XP
	収縮期	拡張期	蛋白	潜血	尿糖	血糖	GOT	GPT	γ-GTP	HDL	LDL	TG	BMI		
事後指導	160≦	90≦	2+ ≦	2+ ≦	1+ ≦								30 ≦	有所見者	要精密 ≦
経過観察	160≦	90≦	1+ ≦	2+ ≦	1+ ≦	200 ≦	50 ≦	70 ≦	120 ≦	40 >	150 ≦	200 ≦			

平成 29 年度

再検査

学部	血圧再検査					尿再検査				
	受診数	有所見数	%	再検数	%	受診数	有所見数	%	再検数	%
総合科学	684	38	5.6	29	76.3	814	87	10.7	82	94.3
医学	1484	66	4.4	35	53.0	1496	156	10.4	138	88.5
歯学	311	16	5.1	10	62.5	311	45	14.5	34	75.6
薬学	436	16	3.7	12	75.0	448	54	12.1	46	85.2
工学	1285	113	8.8	75	66.4	1504	92	6.1	81	88.0
理工学	951	79	8.3	62	78.5	601	136	22.6	126	92.6
生物資源産業	160	13	8.1	11	84.6	100	27	27.0	26	96.3
計	5311	341	6.4	234	68.6	5274	597	11.3	533	89.3

事後指導

学部	対象者数	呼出数	%	受診数	%	血圧		尿		生化学		内科		胸部レントゲン		肥満	
						対象者数	受診数	対象者数	受診数	対象者数	受診数	対象者数	受診数	対象者数	受診数	対象者数	受診数
総合科学	684	51	7.5	39	76.5	13	5	9	7	33	23	8	6	2	2	14	8
医学	1484	98	6.6	64	65.3	16	7	17	11	55	31	35	25	8	8	24	12
歯学	311	36	11.6	23	63.9	4	2	8	3	24	12	3	6	2	2	13	5
薬学	436	30	6.9	17	56.7	4	1	8	1	18	9	7	6	1	1	5	3
工学	1285	88	6.8	33	37.5	26	3	10	2	62	18	17	7	5	5	39	16
理工学	951	71	7.5	34	47.9	15	6	9	4	52	19	13	10	1	1	27	11
生物資源産業	160	11	6.9	8	72.7	4	3	1	0	7	7	2	1	0	0	4	4
計	5311	385	7.2	218	56.6	82	27	62	28	251	119	85	61	19	19	126	59

経過観察

学部	血圧		尿		生化学	
	対象者数	受診数	対象者数	受診数	対象者数	受診数
総合科学	8	3	18	9	1	0
医学	11	3	37	12	4	1
歯学	3	1	16	4	3	2
薬学	4	0	16	4	9	3
工学	24	2	19	1	1	0
理工学	10	1	24	6	0	0
生物資源産業	2	0	2	1	1	0
計	62	10	132	37	19	6

3. 学生特別健康診断

放射線取扱者の健診を9月と2月の年2回、および学内駅伝大会のための健診を12月に行っている。放射線取扱者の健診受診者数においては、平成29年度は平成26~28年度の約2000名と比べると少なかった。また、駅伝大会のための健診者も、平成26~28年度の平均約280名に比べ減少した。

学部	平成29年度		計
	放射線取扱 扱い者	徳島大学 駅伝大会 出場者	
総合科学	20	39	59
医学	976	5	981
歯学	12	0	12
薬学	184	0	184
工学	411	56	467
理工学	0	96	96
生物資源産業学	0	22	22
計	1603	218	1821

学内駅伝大会出場者で、心電図検査を受けたことがない学生を対象に心電図検査を実施している。

心電図検査実施件数

学部	平成29年度
総合科学	33
医学	5
歯学	0
薬学	0
工学	50
理工学	85
生物資源産業学	21
計	194

4. 職員定期健康診断（事後措置）

職員定期健康診断は、平成26年度から外注で6月に実施されているが、定期健康診断実施後の事後措置は当保健管理部門にて従来どおり行っている。

がん検診については、大腸がん、肺がんにおいては、健診受診者の精密検査の要否判定を行っている。（なお、表においては「大腸がん・受診者」は健診受診者数を表し、「肺がん・精密受診者」は精密検査要と判定した者のうち精密検査受診者数を表している。）大腸がん健診の受診者数は28年度まで3年漸増傾向であったが、29年度はそれぞれ横ばいであった。

*職員定期健康診断事後指導呼び出し基準

血圧		尿		血液検査									
収縮期	拡張期	蛋白	尿糖	HGB(男)	HGB(女)	血糖	GOT	GPT	γ-GTP	HDL	LDL	TG	HbA1c
160 ≤	95 ≤	1+ ≤	2+ ≤	< 11	< 10	200 ≤	100 ≤	100 ≤	200 <	< 40	170 ≤	200 ≤	7 ≤

平成29年度

検査名 所属	血圧			尿			生化学			貧血			大腸がん	肺がん
	対象数	受診数	%	対象数	受診数	%	対象数	受診数	%	対象数	受診数	%	受診数	受診数
事務局	9	6	66.7	11	8	72.7	33	24	72.7	0	0	0.0	20	8
病院	22	9	40.9	34	19	55.9	118	74	62.7	19	13	68.4	49	6
常三島事務部	4	4	100.0	2	1	50.0	4	3	75.0	0	0	0.0	2	2
蔵本事務部	0	0	0.0	9	7	0.0	5	1	20.0	3	2	0.0	4	0
大学院医歯薬学研究部	15	11	73.3	11	8	72.7	65	45	69.2	5	3	60.0	37	6
大学院社会産業理工学研究部	12	6	50.0	15	13	86.7	63	51	81.0	3	3	100.0	23	1
学内共同教育研究	9	5	55.6	6	3	50.0	26	22	84.6	2	2	100.0	35	7
研究連携推進機構	2	1	0.0	0	0	0.0	5	2	40.0	0	0	0.0	5	1
計	73	42	57.5	88	59	67.0	319	222	69.6	32	23	73.3	175	31

5. 職員特殊健康診断

深夜業務、放射線取り扱い業務、有機溶剤取り扱い業務、特定化学物質取り扱い業務およびVDT作業の各従事者に対して、年2回の特殊健康診断を実施している。平成23～25年度の受診数が平均約2800件であったことと比較すると、26～28年度では平均3290件と増加し、また、平成29年度では、有機溶剤および特定化学物質取り扱い業務従事者でそれぞれ増加傾向である。

平成29年度

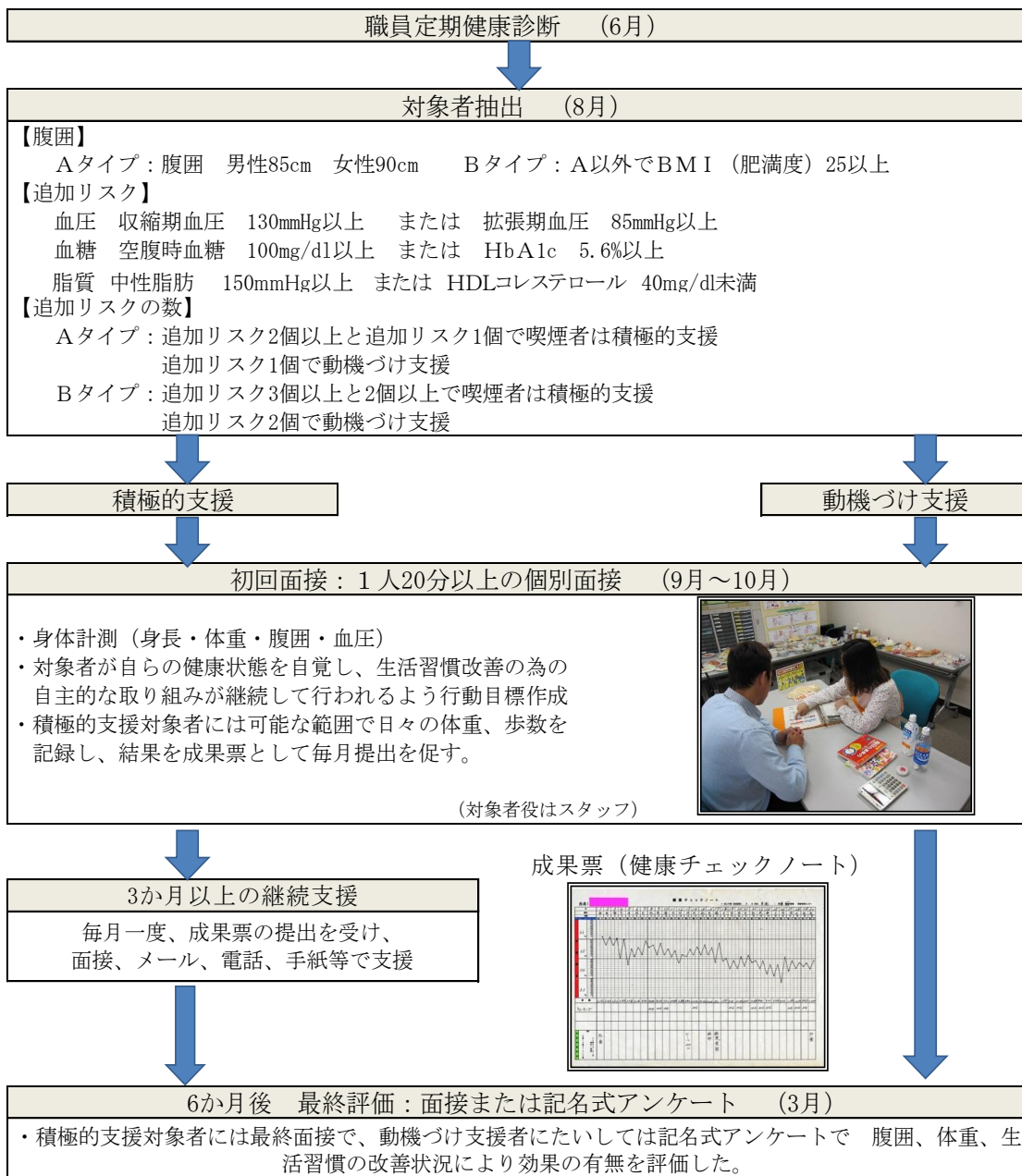
所 属	健康診断受診数					計
	深夜業務	放射線取り 扱い	有機溶剤	特定化学物 質	VDT	
事務局						
病院	1404	1070	29	49	6	2558
常三島事務部					1	1
蔵本事務部						
大学院医歯薬学研究部		400	52	50	1	503
大学院社会産業理工学研究部		71	18	21	5	115
学内共同教育研究		91	12	20	3	126
研究連携推進機構						
その他						
計	1404	1632	111	140	16	3303

6. 職員特定保健指導

特定保健指導とは

平成20年度より、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した特定健康診査、特定保健指導が開始となり、当センターでも職員の生活習慣見直しのサポートを開始した。特定保健指導には、リスクの程度に応じて、積極的支援と動機づけ支援があり、よりリスクの高い方が積極的支援となる。

支援の方法



*保健指導実施にあたり、大学院医歯薬学研究部 岡久玲子准教授に毎年ご協力いただいています。

平成 28 年度には、積極支援の対象者が 100 名、動機付け支援の対象者が 89 名であったが、平成 29 年度はそれぞれ 85 名、115 名であり、積極支援の対象者が減少した。一方で平成 29 年度は積極支援の対象者中初回面接を受けた者の割合が 41%と高い割合を示しており、28 年度から 29 年度にかけて、特定保健指導の活用とその成果がみられている。

平成 29 年度

<積極支援>

地区	対象者		初回面接実施者		初回面接後 内服開始に より対象外と なった者	初回面接後、3 か月継続支援完 了者		6ヶ月後評価が出来た者で 効果が見られた者			初回面接実施者中効果 の見た者	
	人数	率	人数	率		人数	率	評価人数	効果あり	率	人数	率
常三島・新蔵地区	32	53.1	17	53.1	0	10	58.8	10	9	90.0	9	52.9
蔵本地区	53	34.0	18	34.0	1	9	52.9	9	5	55.6	5	29.4
合計	85	41.2	35	41.2	1	19	55.9	19	14	73.7	14	41.2

<動機付け支援>

地区	対象者		初回面接実施者		初回面接から6か月後 質問紙提出があった者		6ヶ月後評価が出来た者で 効果が見られた者			初回面接実施者中 効果の見た者	
	人数	率	人数	率	人数	率	評価人数	効果あり	率	人数	率
常三島・新蔵地区	38	39.5	15	39.5	12	80.0	12	8	66.7	8	53.3
蔵本地区	77	19.5	15	19.5	12	80.0	12	5	41.7	5	33.3
合計	115	26.1	30	26.1	24	80.0	24	13	54.2	13	43.3

*メールや電話、手紙、面接等で支援を行った総数(初回面接除く)134件

7. 感染症対策

学生の感染症対策として、病院内の実習における感染症対策に求められる基準に合わせて、学部学科より実施希望を受け、HB 感染症対策として、採血およびワクチン接種を行っている。平成 29 年度の実施数は例年並みであった。

学部	平成29年度	
	HBsワクチン接種	HBs抗原抗体採血・抗体採血
総合科学	42	27
医学	926	603
歯学	161	110
薬学	162	108
工学	0	0
理工学		
生物資源産業学		
計	1291	848

また、学生・職員の希望者に対して、インフルエンザの予防接種を実施している。学生の希望者は年度により 100 件程の増減があるが、職員の希望者は継続して増加傾向である。

インフルエンザワクチン接種状況

所属		平成29年度
学生	総合科学	91
	医学	560
	歯学	139
	薬学	125
	工学	192
	理工学	69
	生物資源産業	32
	小計	1208
職員	事務局	171
	病院	0
	常三島事務部	57
	蔵本事務部	19
	大学院医歯薬学研究部	19
	大学院社会産業理工学研究部	162
	学内共同教育研究	115
	研究連携推進機構	0
	その他	31
	小計	574
合計		1782

8. 学内行事での救護活動

大学や学部等からの依頼により、行事などでの救護に対応している。科学体験フェスティバル、大学祭、駅伝大会、センター試験、その他の入試など休日に実施される行事の救護についても保健管理部門の医師2名、看護師2名が分担して対応している。

<学内>

行事内容		常三島		蔵本	
		日数	救護者	日数	救護者
入試関係	大学入試センター試験	2	2		
	前期試験	2	0	2	0
	後期試験	1	0	1	0
	推薦入試等	4	0	3	0
イベント	科学体験フェスティバル	2	10		
	大学祭等	2	0		
	オープンキャンパス	2	3	5	0
	SPODフォーラム	3	0		
合計		18	15	5	0

<学外>

行事内容		日数	救護者	場所
大会	徳島大学駅伝大会	1	1	徳島中央公園
	四国インカレ	2	6	鳴門ボカリスエットスタジアム
合計		3	7	

9. 産業保健活動

徳島大学の安全衛生管理体制の中で、産業医（常三島地区：前田、蔵本地区：井崎）業務と衛生管理者（常三島地区：早瀬）業務を行っている。

職場巡視（産業医：常三島・蔵本）

安全衛生委員会（産業医、衛生管理者：常三島・蔵本）

衛生管理者巡視（衛生管理者：常三島）

長期休業者職場復帰支援（産業医：常三島・蔵本）

ストレスチェック実施、面接指導（産業医：常三島・蔵本）平成28年度～

10. 常三島地区利用状況

(1) 学生利用状況—学部別

診療に関しては、近年の診療総件数は1600件前後であったが、平成29年度は全体に減少している。診療利用率は生物産業学部が最も高くなっていた。

平成29年度

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	機器利用	衛生材料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所	メール、電話							
総合科学	160	33	165	5	363	189	1	9	1	200	188	43	87	8	25	5518	295	0	8549
医学	47	38	2	4	91	158	0	8	2	168									
歯学	9	5	0	1	15	32	0	6	0	38									
薬学	3	7	10	1	21	68	0	3	0	71									
工学	275	91	137	3	506	424	3	9	3	439									
理工学	217	106	20	1	344	15	1	2	1	19									
生物資源産業学	62	23	1	3	89	7	0	0	0	7									
その他	4	9	1	0	14	0	0	0	0	0									
計	777	312	336	18	1443	893	5	37	7	942	188	43	87	8	25	5518	295	0	8549

(2) 学生利用状況—月別

機器利用が、平成28年度に6279件と激増し、平成29年度は5518件とやや減少したものの、機器を利用し、自分の身体の状態をチェックする学生の増加傾向が続いている。診療利用数は8月9月および2月3月に減少し、全体の利用数は5月6月が最も多くなっている。

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	機器利用	衛生材料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書	書類計	来所	メール、電話							
4月	108	50	17	5	180	150	0	18	0	168	53	19	10	2	3	239	28	0	702
5月	119	44	23	3	189	269	2	5	0	276	28	9	16	2	2	672	43	0	1237
6月	104	47	26	1	178	90	0	1	1	92	17	2	15	1	1	932	39	0	1277
7月	62	64	26	0	152	50	2	0	0	52	10	2	15	0	2	700	50	0	983
8月	16	11	21	0	48	30	0	2	1	33	0	1	4	1	2	404	31	0	524
9月	31	9	26	0	66	11	0	0	0	11	4	0	0	0	4	485	29	0	599
10月	83	24	40	4	151	9	1	2	1	13	24	0	12	0	2	625	24	0	851
11月	71	30	34	1	136	11	0	2	0	13	2	0	4	0	7	432	13	0	607
12月	45	11	32	1	89	5	0	1	1	7	1	0	2	1	0	407	5	0	512
1月	74	10	36	1	121	17	0	1	0	18	1	1	7	0	1	317	30	0	496
2月	40	4	30	2	76	33	0	2	2	37	15	0	2	1	0	220	1	0	352
3月	24	8	25	0	57	218	0	3	1	222	33	9	0	0	1	85	2	0	409
計	777	312	336	18	1443	893	5	37	7	942	188	43	87	8	25	5518	295	0	8549

(3) 職員利用状況

平成 29 年度は診療の利用が例年より少なかったため、全体の利用件数が少なくなっている。

利用区分	診療					相談		書類					休養室 利用	急患救 護	実験用 採血	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科 系	診療計	職場復 帰支援	関係者 コンサル テーション	健康診 断証明 書	健診結 果表	紹介状	診断書・意 見書	書類計				
平成29年度	58	27	25	1	111	14	1	1	3	3	13	20	4	0	12	162

1 1. 蔵本地区利用状況

診療の利用が、27年度から増加傾向にあり、メンタルの診療件数は29年度も増加しているものの内科・外科の利用がやや減少したことにより、全体の診療件数は微減となっている。学部別では薬学部の診療利用率が最も高い。

(1) 学生利用状況—学部別

平成29年度

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	機器利用	衛生材料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所	メール、電話							
総合科学	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	129	68	0	0	0	188	22	209	1364
医学	214	130	57	17	418		6	9	0	15			32	1	0				
歯学	42	15	10	1	68		2	3	0	5			5	0	0				
薬学	57	45	62	6	170		2	2	4	8			18	3	0				
工学	2	0	0	0	2		0	0	0	0			1	0	0				
その他	0	1	0	0	1		0	0	0	0			0	0	0				
計	316	191	129	24	660		10	14	4	28			56	4	0				

(2) 学生利用状況—月別

月別に見ると、4～7月の利用が多い傾向がある。

平成29年度

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	機器利用	衛生材料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所	メール、電話							
4月	32	10	6	5	53	0	0	0	0	0	14	5	9	0	0	5	7	36	129
5月	47	33	12	4	96	0	2	8	0	10	14	11	11	1	0	35	2	60	240
6月	44	39	10	2	95	0	5	0	0	5	9	6	7	0	0	45	2	24	193
7月	13	24	10	2	49	0	2	0	0	2	10	2	4	1	0	27	2	12	109
8月	10	9	9	3	31	0	1	0	1	2	4	8	2	0	0	11	0	6	64
9月	13	11	13	1	38	0	0	1	1	2	14	4	2	0	0	11	1	5	77
10月	41	14	9	2	66	0	0	0	0	0	12	7	4	1	0	9	2	12	113
11月	35	18	11	1	65	0	0	1	0	1	13	4	7	0	0	13	4	6	113
12月	24	6	13	2	45	0	0	0	0	0	10	3	2	0	0	5	1	2	68
1月	20	9	8	1	38	0	0	1	0	1	8	5	3	0	0	11	0	17	83
2月	27	14	16	1	58	0	0	1	2	3	14	7	3	1	0	11	0	17	114
3月	10	4	12	0	26	0	0	2	0	2	7	6	2	0	0	5	1	12	61
計	316	191	129	24	660	0	10	14	4	28	129	68	56	4	0	188	22	209	1364

(3) 職員利用状況

平成 28 年度は職員の診療利用件数の微増と機器利用（血压計など）の増加が見られた利用件数が例年より多くなったが、同様の傾向が 29 年度も続いている。

利用区分	診療					相談		書類					健康相談		休養室 利用	急患救 護	機器利 用	衛生材 料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科 系	診療計	職場復 帰支援	関係者 コンサル テーション	健康診 断証明 書	健診結 果表	紹介状	診断 書・意 見書	書類計	来所	メール、 電話						
平成29年度	31	28	32	0	91	12	2	1	15	2	6	24	30	26	4	1	88	2	30	310

12. 学生メンタルヘルス関連

(1) こころの相談室受診状況

常三島保健管理部門および蔵本保健室の「こころの相談室」を受診した学生数を示している。平成28年度は71名であったが、29年度は83名と利用者はやや増加している。診断の内訳を見ると、神経症性障害、生理的障害、その他のメンタルヘルス相談が増加、広汎性発達障害圏が減少している。

		常三島	蔵本	総計
精神 医学 的診 断	F0 症状性・器質性精神障害	0	0	0
	F1 精神作用物質による精神障害	0	0	0
	F2 統合失調症圏	2	0	2
	F3 気分障害	9	9	18
	F4 神経症性障害	26	9	35
	F5 生理的障害	4	3	7
	F6 パーソナリティ障害	1	0	1
	F8 広汎性発達障害圏	7	0	7
	F9 小児・青年期の行動情緒障害	4	2	6
	その他	4	3	7
計(人数)		57	26	83
計(面接件数)		336	129	465

関係者のみの相談利用

学生本人の利用はないが、関係者（保護者や教員）のみが学生について相談利用した数は例年同様、少数であった。

	常三島	蔵本	総計
関係者のみの相談(保護者・教員)(人数)	1	0	1
面接件数	1	0	1

学部別受診状況

在学者数から見ると、例年は総合科学部の受診率が最も高く、29年度も受診率が高かったものの、29年度は薬学部の学生の受診率が上がり（受診者数が27、28年度は6名）、最も高かった。

	常三島	蔵本	総計
総合科学部	22	0	22
医学部	1	14	15
歯学部	0	3	3
薬学部	4	9	13
工学部	24	0	24
理工学部	4	0	4
生物資源産業学部	1	0	1
その他	1	0	1
計(人数)	57	26	83

(2) 新入生メンタルヘルス健診実施状況

平成20年度から、新入生の健診時に、自記式の質問紙によるメンタルヘルス健診を実施している。質問紙の回答の結果がカットオフを超えていた者を二次健診対象者として、面接を呼びかけて精神保健指導を行っている。

質問紙は平成26年度まではGHQ28を、27年度からUPIを使用している。UPIでは60点満点中「総得点が30点を越える者」、「得点にかかわらず自殺念慮が見られる者」とした。また、カットオフ基準には至らない高得点者には希望者に面接を行った。

二次健診対象者は例年受診者の6～8%で、29年度も6.7%であった。面接の結果の要留意学生数は、面接数の50%であった。面接時の状態に従って、精神保健指導、継続相談治療への導入、医療機関への紹介などを行った。

	学生数	受診者数	受診率 (回収率)	平均得点	二次健診対象者		二次健診結果	
					対象者数	対象者率	面接数	要留意学生数
平成29年度	1331	1291	97%	12.4	86	6.7%	26	13
前年度	1335	1266	95%	12.8	81	6.4%	34	15

1 3. 健康教室等実施利用状況

平成 26 年度より常三島地区のヘルスチェックルームにて、学生・職員を対象に、計測機器利用や検査を体験してもらい、健康増進を考えるきっかけづくりとなるよう、健康教室を実施している。また、平成 29 年度下半期は、睡眠に関する健康支援として、学生・職員の希望者を対象に、アクチグラフィ検査を実施した。

平成 29 年度健康教室

	内容	日程	参加人数	合計
第1回	動脈硬化	平成29年12月18日	2	11
		平成29年12月19日	3	
		平成29年12月20日	2	
		平成29年12月21日	4	
第2回	肺機能	平成30年3月20日	3	7
		平成30年3月22日	2	
		平成30年3月23日	2	
平成29年度総計				18

*1回1時間実施

アクチグラフィ検査利用者数

	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	1	0	2	1	0	4
職員	0	0	0	0	1	1

14. 学生健康診断証明書発行状況

学生の健康診断証明書は、学務部に設置してある自動発行機にて発行できるようになっている。ただし、発行に当たって医師の確認を要する場合など、自動発行機で発行できない場合は、常三島保健管理部門で発行している。

平成29年度

① 保健管理部門発行分

	総科	医学	歯学	薬学	工学	理工	生物資源	合計(枚)
4月	21	22	3	34	68	1	1	150
5月	86	20	4	16	142	1	0	269
6月	38	24	1	1	23	1	2	90
7月	4	7	1	1	27	9	1	50
8月	13	14	0	0	2	1	0	30
9月	1	4	0	2	3	1	0	11
10月	1	3	1	0	4	0	0	9
11月	2	3	3	0	3	0	0	11
12月	1	1	0	1	0	1	1	5
1月	5	2	6	4	0	0	0	17
2月	3	8	5	0	16	0	1	33
3月	14	50	8	9	136	0	1	218
合計	189	158	32	68	424	15	7	893

② 自動発行機発行分

	総科	医学	歯学	薬学	工学部	理工学部	生物資源	合計(枚)
4月	16	26	8	49	265	0	0	364
5月	215	49	8	57	627	2	2	960
6月	47	91	3	10	148	4	4	307
7月	17	66	8	13	50	9	0	163
8月	14	41	5	1	31	9	0	101
9月	11	13	3	1	44	0	0	72
10月	7	18	2	3	28	0	0	58
11月	2	26	1	0	3	0	0	32
12月	3	22	0	0	3	2	0	30
1月	1	10	13	0	4	0	0	28
2月	2	28	7	4	23	0	0	64
3月	24	49	3	53	67	0	0	196
合計	359	439	61	191	1,293	26	6	2,375

① + ②

	総科	医学	歯学	薬学	工学	理工	生物資源	合計(枚)
4月	37	48	11	83	333	1	1	514
5月	301	69	12	73	769	3	2	1,229
6月	85	115	4	11	171	5	6	397
7月	21	73	9	14	77	18	1	213
8月	27	55	5	1	33	10	0	131
9月	12	17	3	3	47	1	0	83
10月	8	21	3	3	32	0	0	67
11月	4	29	4	0	6	0	0	43
12月	4	23	0	1	3	3	1	35
1月	6	12	19	4	4	0	0	45
2月	5	36	12	4	39	0	1	97
3月	38	99	11	62	203	0	1	414
合計	548	597	93	259	1,717	41	13	3,268

15. 年間主要行事

平成 29 年度

月	学 生 業 務	職 員 業 務
4	新入生定期健康診断	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(病院診療用)
	在校生定期健康診断	
	再検査(血圧・尿)	
	健康診断証明書発行	
5	在校生定期健康診断	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(病院診療用)
	HBs抗原抗体検査(麻疹・風疹・水痘・ムンプスを含む) (医1・栄1・歯1・口1・看1・3編入・検1・放1・薬4・助・総M1)	
	定期健康診断有所見者事後指導(6月下旬まで)	
	学生精神健康調査有素見者面接(7月下旬まで)	
放射線取り扱い者健康診断(新規)		
6	1回目HBsワクチン接種 (医1・栄1・歯1・口1・看1・3編入・検1・放1・薬4・助・総M1)	VDT作業従事者健康診断(第1回)
	第1回メンタルヘルスマーケティング	
7	2回目HBsワクチン接種	有害業務従事者健康診断(第1回)
	四国インカレ救護	
8	オープンキャンパス救護	
	科学体験フェスティバルin徳島救護	
	SPODフォーラム救護	
	第47回 中国・四国大学保健管理研究集会(高知大学)	
9		特定保健指導
	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(更新)	
	第2回メンタルヘルスマーケティング	
前期業務整理		
10	秋季入学健康診断	特定保健指導
	定期健康診断有所見者経過観察	
	インフルエンザ予防接種実施(希望者)11月上旬まで 大学祭救護	
11	秋季入学健康診断	定期健康診断有所見者経過観察
	3回目HBsワクチン接種	特殊健診:深夜業務従事者健康診断(第2回)
	インフルエンザ予防接種受付(希望者)	特殊健診:VDT作業従事者健康診断(第2回)
		特殊健診:有害業務従事者健康診断(第2回)
	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(新規)	
	推薦入試救護	
第55回全国大学保健管理研究集会(沖縄) 公益社団法人全国大学保健管理協会施設長会議		
12	徳島大学駅伝大会出場者健康診断	有害業務従事者健康診断(第2回)
	駅伝健診の再検査及び医療機関紹介	
	第3回メンタルヘルスマーケティング	
1	健康教室(動脈硬化検査)	
	第45回徳島大学駅伝大会救護	胃がん検診(40才以上)
		子宮がん検診(女子職員希望者)
		大腸がん検診(希望者)
		喀痰細胞診検査(希望者)
		がん検診判定(大腸がん・喀痰細胞診)
大学入試センター試験救護		
2	HBs抗体検査 (医1・栄1・歯1・口1・看1・3編入・検1・放1・薬4・助・総M1)	
	前期入学試験救護	
	推薦入試救護	
	放射線取り扱い者健康診断(更新)	
公益社団法人全国大学保健管理協会中国四国保健看護運営委員会		
3	後期入学試験救護	
	健康教室(肺機能検査)	
	定期健康診断打ち合わせ会	
	公益社団法人全国大学保健管理協会中国四国地方部会幹事会(書面審議)	
	全国大学保健管理協会中国四国地方部会意見交換会	
	第4回メンタルヘルスマーケティング	
第1回保健管理・総合相談センター運営委員会 本年度業務整理		

Ⅱ. 総合相談部門

1. 利用状況

(1) 学生相談利用状況

学部別で見ると、「総合科学部」と「工学部」の来談者が最も多く、ほぼ同数であった。

総合科学部は、他学部とは異なり、国家資格と直接結びつく養成を行うことを目的としていない。従って、入学してくる学生は、入学後に自分探しを行うこととなり、自己の内面に関心が向きやすい学生が多くなっている。その結果、来談者が多くなっていると考えられる。一方、工学部の学生は、在籍学生数そのものが他学部と比べると圧倒的に多いことから、来談者が多くなったと考えられる。

相談内容別で見ると、「留年・不登校」、「人間関係の問題」及び「精神面の問題」の解決を求めて来談した学生が最も多く、ほぼ同数であった。深刻な修学問題や、身近な他者との関係性や心理状態など、周囲には気軽に相談できない私的な問題の解決のための利用ニーズが高いと考えられる。

学部	修学・履修	留年・不登校	進路・就職	経済的	人間関係	精神面	健康面	人権	悪質商法	その他	合計
総合科学部	5	10	8		14	17		1	1	2	58
医学部	1	5	6		6	6	1	4		4	33
歯学部			2		2			2		1	7
薬学部	4	3	5	1	4	2		3			22
工学部	9	15	5	1	9	6		4		7	56
理工学部	1	3	1		1	2				2	10
生物資源産業学部						1				1	2
不明学部										4	4
その他						1		1			2
合計	20	36	27	2	36	35	1	15	1	21	194

(2) 職員相談利用状況

所属別で見ると、「薬学部」と「医学部」の来談者が最も多く、ほぼ同数であった。職員相談については、平成26年度以降右肩上がりでの件数が増加してきた。特に平成28年度は178人と前年の2.5倍となった。なお、平成29年度は平成26年度とほぼ同数となった。

相談内容別で見ると、「人間関係の問題」と「人権問題」の解決を求めて来談する教職員が最も多く、こちらもほぼ同数であった。それだけ職場の対人的環境で悩む教職員が多かったことが伺える。

学部	人間関係	就労環境	雇用条件	職業将来設計	人権	精神面	自分の生活等	家族	その他	合計
医学部	5	1			2				1	9
歯学部	1									1
薬学部	3	1			6					10
工学部					2	1		1		4
不明学部					1				1	2
病院							1			1
共同教育研究施設	2			1	1	1				5
事務局	3				2	1		1		7
その他									1	1
合計	14	2		1	14	3	1	2	3	40

2. 活動報告

平成 29 年度

月	対象者	行事	内容
4	学生・教職員・保護者	「保健管理・総合相談センター利用案内」発行	保健管理・総合相談センターの利用案内及び活動内容を周知、保護者宛て徳大広報「とくtalk」2017春号に同封
		新入生(理工学部)オリエンテーション	理工学部を2ブロックにわけて新入生を対象のオリエンテーション(学生時代の悩み・総合相談部門の紹介)を実施(赤坂専任教員)
		新入生(総合科学部)オリエンテーション	新入生を対象のオリエンテーション(学生時代の悩み・総合相談部門の紹介)を実施(井ノ崎専任教員)
		新入生(生物資源産業学部)オリエンテーション	新入生を対象のオリエンテーション(学生時代の悩み・総合相談部門の紹介)を実施(井ノ崎専任教員)
		新入生(医学部)オリエンテーション	新入生を対象のオリエンテーション(学生時代の悩み・総合相談部門の紹介)を実施(藤原専任教員)
		新入生(歯学部・薬学部)オリエンテーション	新入生を対象の入門講座(学生時代の悩みと総合相談部門の紹介)を実施(藤原専任教員)
	新入生・学生	マルチ商法及びカルト問題の注意喚起のリーフレットを作成・配布	新入生に配布する悪質商法及びカルト問題の注意喚起のリーフレットを作成し、配布
	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島地区2回、蔵本地区2回](井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
	学生・教職員・保護者	徳大広報「とくTalk」2017春号掲載	ヘルスケア(赤坂専任教員)
教職員	病院新規採用者オリエンテーション	「人権問題」について講演を実施(赤坂専任教員)	
5	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島・蔵本地区各2回](井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
	専任教員	日本学生相談学会第35回大会	井ノ崎専任教員出席
6	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島・蔵本各2回](井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
	教職員	「生命倫理概論」	「キャンパス・ハラスメントを通して『医療従事者の倫理』を考える」について講義を実施(赤坂専任教員)
教職員	メンタルヘルスマーケティング	保健管理部門と総合相談部門との情報交換及び事例についてカウンセラー等が意見交換	
7	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島・蔵本地区各2回](井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
	専任教員	日本コミュニティ心理学会第20回記念大会	藤原専任教員出席
		第31回精神分析臨床研究会	赤坂専任教員出席
8	学生	エンカウンター・グループ	参加学生の自己発見と自己成長を目指すグループワークを2日間にかけて実施(井ノ崎専任教員)

月	対象者	行事	内容
9	教職員	メンタルヘルスマーケティング	保健管理部門と総合相談部門との情報交換及び事例について カウンセラー等が意見交換
	教職員・学生	学生支援担当教職員研究会	井ノ崎専任教員出席
	専任教員	日本心理学会第81回大会	井ノ崎専任教員発表
	教職員・外部	ワーク・メンタルバランス無料相談会	赤坂専任教員実施
10	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島2回](井ノ崎専任教員)
		大学祭に参加	大学祭において心理テストを実施[常三島・蔵本地区]
	学生・教職員・保護者	徳大広報「とくTalk」2017秋号掲載	ヘルスケア(山本部門長)
11	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島2回](井ノ崎専任教員)
	専任教員	日本心理臨床学会第36回大会	井ノ崎専任教員出席
		日本精神分析学会第63回大会	赤坂専任教員出席
12	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島2回](井ノ崎専任教員)
	教職員	メンタルヘルスマーケティング	保健管理部門と総合相談部門との情報交換及び事例について カウンセラー等が意見交換
1	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施(井ノ崎専任教員、藤原専任教員)
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施[常三島2回](井ノ崎専任教員)
	教職員・外部	ワーク・メンタルバランス無料相談会	赤坂専任教員実施
2	専任教員	第32回精神分析臨床研究会	赤坂専任教員出席
3	教職員	学生支援連絡会	キャリア支援室, 特別修学支援室, 保健管理部門との連携及び 意見交換
		メンタルヘルスマーケティング	保健管理部門と総合相談部門との情報交換及び事例について カウンセラー等が意見交換
	専任教員	学生向けセクハラ予防啓発冊子「学生のための セクシュアルハラスメント予防対策」作成 (PDF)	全専任教員
	専任教員	第1回トラウマ・インフォームドケア研究会	中村専任教員出席

※総合相談部門開室日

月～金 8:30～17:15

※総合相談部門閉室日

夏季一斉休業(29.8.14～29.8.16の間)

冬季一斉休業(29.12.29～30.1.3の間)

あとがき

前回の年報から経費節減，業務簡素化の一環として PDF 化して，徳島大学の HP に毎年掲載することになりました。簡素化と書きましたが，保健管理部門と総合相談部門の日々の活動とそれらを月ごとに数値化する作業など両部門のスタッフの努力の賜と言えるでしょう。

保健管理部門も総合相談部門も身体や心の不調がなければ，意識化されることはないでしょう。4年間あるいは6年間の大学生活の中で「そんなところがあったんだ」と言える方が良いかも知れません。健康診断以外の業務では，保健管理・総合相談センターは機能しない方が良いのかもしれない。しかし，さまざまな環境下で身体やこころの不調，教育現場，職場などで起きるハラスメントなどが起こっているのが原状です。そのような問題があれば，在学期間中に少しでも解決する方向に向かうようにこれからもスタッフ一同皆さんと一緒に歩んで行ければと考えています。

必要があれば，ためらわず利用されることをお勧めします。

総合相談部門長 山本真由美